

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章1～6節>  
キリスト教信仰の魅力満載の第4章です。丁寧に見て行きます。

### 1 (1-2) 何も恐れないパウロの生き方はどこから来たのか？

「卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにする」(2)。誰もが憧れるが実際には難しい生き方です。パウロはなぜできたのでしょうか？ 彼は、「憐れみを受けた者としてこの務めをゆだねられているのですから、落胆しません」(1)と語っています。パウロは「憐れみを受けた」で、かつて自分がどんな人間であったか、その自分を神様がどうして下さったかを考えているのです（Iテモテ 1:12-17 参照）。「落胆しません」は「疲れて嫌になりません」とも訳せる原語です。自分で考えて取り組んでいるのではなく、神様から与えられた務めだと思って取り組んでいるのです。私たちの人生にもこの見方が入って来た時に、以前と同じ生き方も違ったものとなり始めるのです。

### 2 (5-6) キリストを通して憐れみの神を知ったパウロ。私たちにも！

「神様はイエス・キリストを通してご自分がどんな神かを示された」とはっきり語っている今日の最後の6節は重要です。「闇から光が輝き出よ」(6)は明らかに、この世界を創造された全能なる神様であることを言うために創世記の始めからの引用です。私たちがイエス様を見ることを通してご自分のことを分かるようにされた、これは全能の神様がなされたことであり、したがってそれは起こるが、私たちに説明できることではない、そのことを世界の創造と比較して考えよと言っているのです。

### 3 (3-4) 福音が分からない人に救いはないのか？ そうではない！

パウロは3～4節で、以上のことが分からない人たちのことを「滅びの道をとどる人々」(3)など、結構厳しく聞こえる言葉で語っています。しかし、「信仰を拒否した人は神様に滅ぼされると言っているのだ」と決めつけてはなりません。福音が覆われている人たちからその覆いを取るためにパウロはキリストを宣べ伝え、人々の奴隷となると言っているのですから(5, 3:12-15)。神様は私たちが悔い改める(神様への方向転換)ことを待って下さっているお方なのですから（「日々の御言葉」参照）。